

官

許

太田秀敬著

# 御國史

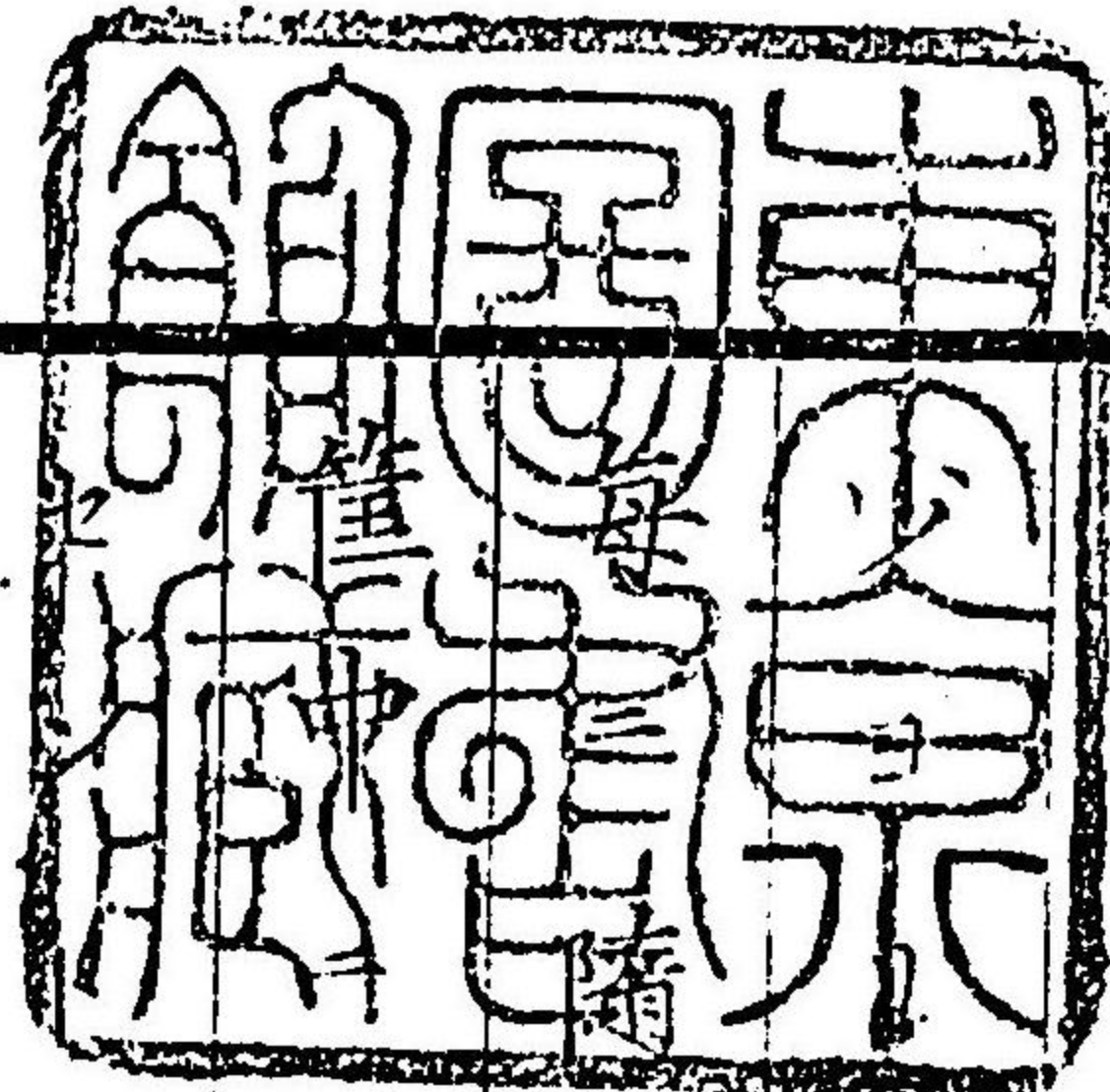
明治七年六月刻成 無一社藏梓

特31  
862

御國史

緒言

史ヲ作ル固ヨリ難ク史ヲ讀ム亦易  
 カラズ余賤陋素ト作史ノ力ナシ唯小  
 好ンテ國史ヲ讀ミ佳所ニ遇フ  
 テ讀ミ隨テ抄シ數年ニシテ稿  
 堆積ス近日一書肆之ヲ梓ニ上  
 請フ是ニ於テ其稿ヲ出シテ之

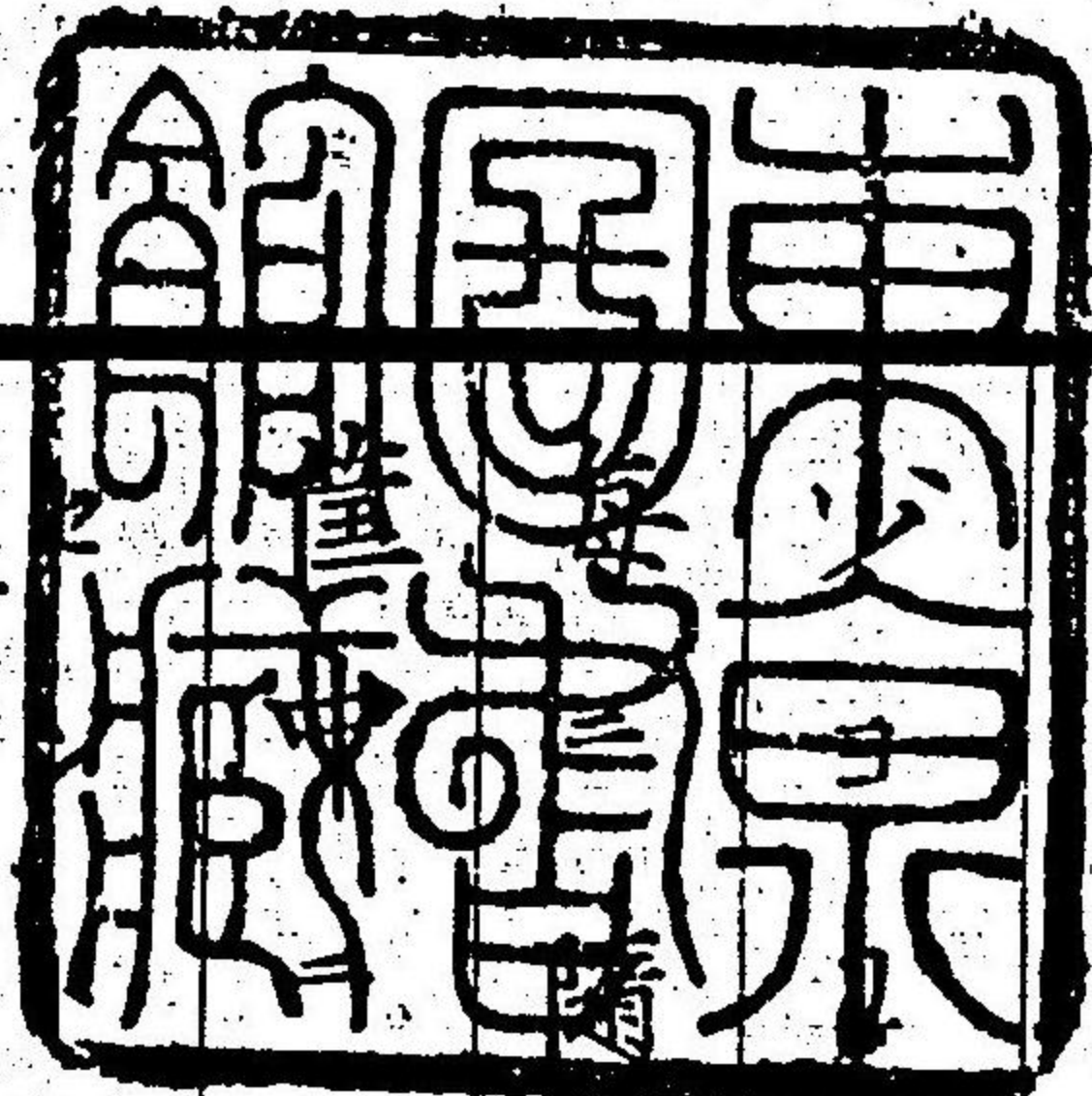


ヲ閱シ上開闢ヨリ下今日ニ至ル迄ノ  
 治亂沿革及ヒ都テ事ノ著明ニシテ緊

御國史

卷之一

例言



御國史

緒言

史ヲ作ル固ヨリ難ク史ヲ讀ム亦易

カラズ余賤陋素ト作史ノカナシ唯小

好シテ國史ヲ讀ミ佳所ニ遇フ

テ讀ミ隨テ抄シ數年ニシテ稿

堆積ス近日一書肆之ヲ梓ニ上

請フ是ニ於テ其稿ヲ出シテ之

ヲ閱シ上開闢ヨリ下今日ニ至ル迄ノ

治亂沿革及ヒ都テ事ノ著明ニシテ緊

要ナルモノヲ採収シ其煩冗ナルモノ  
ハ之ヲ省ク但 天皇ノ即位崩御等ノ  
如キハ讀史ノ大眼目タルヲ以テ事繁  
繁ニ似タリトイヘ凡<sup>ニ</sup>必ス一一之ヲ揭  
ク又地名人名等ニ至テハ古稱大約艱  
澁奇僻ニシテ深ク學ニ志ス者トイヘ  
凡尚之ヲ苦ム況ヤ初學ニ於テヲヤ是  
ヲ以テ其讀ミ難キモノハ假字ヲ以テ  
字傍ニ國訓ヲ施ス且ツ古昔皇國ノ名  
號極メテ多ク往々初學ノ未ダ聞知セ

ザルモノ有リ因テ卷首第一ニ皇國ノ  
名號ヲ舉ク意固ト初學ノ輩ヲシテ一  
讀ノ下古今ノ大勢ヲ知ラシムルニ有  
リ敢テ碩學者儒ノ瀏覽ニ供スルモノ  
ニ非ズ請フ看者行文ノ謫劣ヲ咎ムル  
勿レ

明治七年第六月

太田秀敬識

皇國名號

豐葦原千五百之瑞穗國

扶桑國

日域

烏卯國

日東

豐秋津洲

浦安國

細戈千足國

磯輪上秀真國

玉垣内國

東海女國

大和國

磯城島

大八洲國

耶馬臺國

君子國

倭國

虛見津日本國

阿每國

若木國

姬氏國

日本國

日本

御國史

目次

卷一

神武天皇

綏靖天皇

安寧天皇

懿德天皇

孝照天皇

孝安天皇

孝靈天皇

孝元天皇

開化天皇

崇神天皇

垂仁天皇

景行天皇

成務天皇

仲哀天皇

卷二

應神天皇 仁德天皇

履中天皇 反正天皇

允恭天皇 安康天皇

雄略天皇 清寧天皇

顯宗天皇 仁賢天皇

武烈天皇 繼體天皇

安閑天皇 宣化天皇

欽明天皇 敏達天皇

用明天皇 崇峻天皇

推古天皇 舒明天皇

皇極天皇

卷三

孝德天皇 齊明天皇

天智天皇 弘文天皇

天武天皇 持統天皇

文武天皇 元明天皇

卷四

元正天皇 聖武天皇

孝謙天皇 淳仁天皇

卷五

高野天皇

光仁天皇

桓武天皇

平城天皇

御國史卷一

書

卷一

東京

太田秀敬編次

獨化之神

國常立尊

又天御中主尊ト號ス

國狹土尊

豐斟淳尊

天地始テ開ケシ時神アリテ其中ニ生ス號シテ

國常立尊ト云フ實ニ皇國開闢ノ初神ナリ

偶生之神



泥土煮尊 陽神

沙土煮尊 陰神

大戸道尊 陽神

大筥邊尊 陰神

面足尊 陽神

惶根尊 陰神

伊弉諾尊 陽神

伊弉册尊 陰神

諾册ノ二神天ノ浮橋ニ立チ天ノ瓊矛ヲ以テ滄溟ヲ探リ其鋒滴凝リテ一島ヲナス是ヲ礮馭盧

島ト云フ二神此ノ島ニ居ス一日鵙鷓來リテ首尾ヲ揺カスヲ見テ始テ交婚ノ事ヲ悟リ因テ萬物ヲ化生ス

○地神五尊

天照大御神 又大日靈貴ト號ス

天照大御神ハ伊弉諾尊ノ長女ニシテ素盞鳴尊ノ姉ナリ尊豪故ニシテ大神ヲ犯ス一有リ

大神怒テ天ノ石窟ニ入り戸ヲ閉チテ幽居ス是ニ於テ天地冥晦ニシテ晝夜ヲ辨セズ群神大ニ

歎キ天ノ安河ニ集會シテ長鳴雞ヲアツヌ香山

ノ五百ノ真イオ阪マサカキ樹ヲ取リテ之レニ懸ルニ瓊タマト鏡カミ  
 及ヒ青白ノ幣ヲ以テシ群神樂ヲ石窟ノ前ニ奏  
 ス其優ワガ甚夕面白シ 大神微シク窟ノ戸ヲ啓テ  
 之レヲウカ、フ手タカラ力雄命ヒコノミコト 大神ノ手ヲ奉シ強  
 テ之レヲ援出ス是ニ於テ天地再ヒ明カニ晝夜  
 辨スルヲ得タリ

○群神以爲ク 大神ノ石窟ニ入ルト是レ素盞  
 鳴尊ノ所爲ナリト是ニ於テ素盞鳴尊ヲ出雲國  
 ニ放ナ謫ガス尊謫所ニ至リ國中ヲ徘徊シテ鞮ヒノ上  
 ニ至リ翁媪オキナオキナノ一少女ヲ擁シテ哭スルヲ見テ其

故ヲ問フ翁媪答テ曰此國ニ妖蛇ワカナ有リ頭尾各八  
 箇アリ每年來リテ人ヲ吞ミ喰フ予レ八女アリ  
 シガ蛇ノ爲ニ其七ヲ失ヒ唯此少女ヲ餘スノミ  
 然ルニ今亦害セラレントス此ヲ以テ哭スルナ  
 リト尊曰若シ其女ヲ以テ我ニ獻セバ我能ク汝  
 カ爲ニ害ヲ除カン翁媪喜テ諾ス尊乃チ容ヲ變  
 シテ少女トナリ八間ノ棚屋ササヤヲ作り下ニ八箇ノ  
 槽ヲシ醞シホヲ置キ坐シテ待ツ期ニ至リテ風雨大ニ起  
 リ果シテ巨蛇オホナ有リ來リテ酒ヲ飲ミ醉テ睡ル尊  
 乃チ劍ヲ拔キ蛇ヲ斬テ之ヲ寸斷ニス尾ニ至リ

テ尊ノ劔刃少シク缺タリ尊怪テ蛇ノ尾ヲ割リ  
テ之レヲ視ルニ一ノ寶劔アリ尊大ニ異トシ以  
テ大神ニ獻ス初メ蛇ノ在ル所ノ上常ニ雲氣  
アリ故ニ是ノ劔ヲ號シテ天叢雲劔ト曰フ後日  
本武尊ニ至リ變メテ草薙劔ト名ツク尊遂ニ少  
女ト婚シ歌ヲ作テ曰ク八雲起兮出雲八重牆兮  
與妻棲兮八重牆兮造營兮其八牆兮是ヨリ室ヲ  
清ニ築キ留居スト云フ

正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊

素盞鳴尊ノ生ム所 大神養テ以テ子ト爲ス

天津彦火瓊瓊杵尊

天忍穗耳尊ノ子ニシテ素盞鳴尊ノ孫ナリ 大

神賜フニ八咫鏡叢雲劔八咫瓊曲玉ヲ以テス 三種

始ナリ尊是ニ於テ諸神ヲ率キテ衆惡神ヲ攘除

シ遂ニ豐葦原中國日本ヲ平定シテ崩ス

彦火火出見尊

瓊瓊杵尊ノ第三子ナリ海神ノ女豐玉姬ヲ娶リ

テ葦不合尊ヲ生ム且ツ滿涸ノ二顆ノ瓊ヲ得テ

國富ミ民安シ初メ尊ハ自然ニ山ノ幸アリ尊ノ

兄火闌降命ハ自然ニ海ノ幸アリ二人相謂ク試

ミニ之レヲ易ント是ニ於テ尊ハ弓箭尊ハ山ノ  
 ノ幸ハ即チ獵ノ利ナヲ出シ火關降命ハ釣鉤命  
 リ故ニ弓箭ヲ以テスヲ出シ火關降命ハ釣鉤命  
 ノ幸アリ故ニ釣鉤ヲ以テスヨ出シ互ニ之レヲ  
 換フ火關降命山ニ入りテ獵スレバ曾テ獲ル所  
 ナシ故ニ弓箭ヲ尊ニ還ス尊ハ海ニ釣シテ其鉤  
 ヲ失フヲ以テ新タニ釣ヲ造リテ償フトイヘバ  
 火關降命之レヲ受ケズシテ原ノ釣ヲ還サン  
 ヲ責ム尊大ニ憂ヒ海畔ニ行吟シテ一老翁ニ遇  
 フ翁尊ノ面ニ憂色アルヲ見テ其故ヲ問フ尊告  
 クルニ事情ヲ以テス翁哀デ乃チ無目籠ヲ造リ

尊ヲ盛リ之レヲ海中ニ沈メ海神ノ宮ニ至ラシ  
 ヲ海神尊ニ妻ハスニ其長女ヲ以テス名ヲ豊玉  
 姫ト云フ尊居ス一三年乃チ失フ所ノ釣及ヒ潮  
 満瓊潮涸瓊ノ二寶ヲ得テ還ル別ニ臨テ豊玉姫  
 尊ニ謂テ曰ク妻己ニ娠ムコアリ必ラス風雨滑  
 濤ノ日ヲ以テ岸ニ至リ以テ産スベシ請フ豫メ  
 産舎ヲ營シテ待ツ可シト數日ノ中大風俄ニ起  
 リ海濤奔湧ス豊玉姫果シテ來リ尊ニ臨ム戒テ  
 曰ク慎テ來リ窺フコナカレト尊竊カニ往テ覘  
 フニ一大龍ノ兒ヲ擁シテ盤卧スルヲ見ル遽カ

ニシテ黒雲産舎ヲ掩ヒ跳躍シテ海ニ入り去ル  
尊産兒ヲ取リテ以テ育フ其産舎タルヤ葦ニ鷓  
羽及ヒ茅草ヲ以テス未タ覆合スニ及ハズ兒已  
ニ生ル故ニ之レヲ鷓鷯草葦不合尊ト號ス

彦波瀲武鷓鷯草葦不合尊

火火出見尊ノ子ニシテ海神ノ女豐玉姬ノ生ム  
所ナリ西州宮ニ崩ス日向國吾平上陵ニ葬ル即  
チ神武天皇ノ父ナリ

○人皇紀

神武天皇

神日本磐余彦火火出見天皇ト號ス彦波瀲武鷓  
鷯草葦不合尊ノ第四子ナリ母ハ玉依姬ト號ス  
庚午ノ年降誕シ甲申ノ年立テ太子トナル時ニ  
年十五年四十五ノ時日向國高千穗宮ニ在ル此  
時西州已ニ服スレテ東國イマダ平ナラズ此ニ  
於テ天皇師ヲ起シテ諸兄及ヒ皇子ト凡ニ東  
征シ筑紫ヨリ安藝ニ至リ埃ノ宮ニ居ス吉備國  
ニ至リテ行宮ヲ造リ是ヲ高島宮ト曰フ居ス  
三年兵食ヲ蓄ヘ舟師ヲ帥平浪華河内ヲ歷テ大  
和ニ入り瞻駒山ヲ踰テ中州ニ入ントス長髓彦

ナル者アリ衆ヲ率テ孔舍衛坂ニ邀ヘ戦フ官軍  
與ニ戦テ利アラス皇兄五瀨命流矢ニ中リ師進  
ムトアタハズ 天皇曰ク抑我ハ日神ノ子孫ナ  
リ然シテ東方日ニ向テ戦フハ甚タ不祥ナリ退  
キテ弱キラ示シ日ニ背シテ之レヲ討ンニ如カ  
ズト乃チ引テ還ル五瀨命道ニシテ薨ス進テ紀  
伊ニ至リ名草戸畔等ノ賊ヲ誅シ遂ニ熊野ニ至  
リ海ヲ絶テ進ミ暴風ニ遇テ漂蕩ス乃兵ヲ潜メ  
テ吉野ニ入り八十梟師ヲ誅ス黒坂ヲ越エ賊兄  
磯城ヲ斬リ軍ヲ旋シテ長髓彦ヲ攻メ累戦利アリ

ラス武津津身命化シテ大鳥トナリ軍前ニ翱翔  
シテ郷導ヲナス日臣命靈鳥ノ去ル所ニ隨テ木  
ヲ伐リ榛ヲ披キ諸軍ヲ導テ啓行シ遂ニ長髓彦  
ヲ斬リ國中ノ賊ヲ滅ス尚土蜘蛛ト號スル者四  
人アリ各身短クシテ手足長シ並ニ勇力ヲ恃テ  
來リ降ラズ官軍葛ノ綱ヲ結ヒ以テ之レヲ掩殺  
ス是ニ於テ群兇皆滅シ中國悉ク平ラク乃チ都  
ヲ大和國橿原ニ定メ遂ニ 天皇ノ位ニ即ク實  
ニ辛酉ノ年正月一日ナリ年五十二ト云フ○二  
年功ヲ定メ賞ヲ行フ○四年詔シテ時ヲ鳥見山

ニ作り皇祖天神ヲ祀ル○日臣命東征ニ從ヒ榛  
 ヲ披キ道ヲ通ス因テ名ヲ道臣ト賜フ○可美眞  
 乎命賊ヲ討テ功有リ又其傳フル所ノ天瑞寶ヲ  
 以テ天皇ニ獻シ天皇ノタマニ殿内ヲ宿衛  
 ス因テ足尼ト號ス足尼ノ號此ヨリ始ル○三十  
 一年天皇巡幸シテ高キニ登リ地形ヲ望テ曰  
 ク美ナル哉此國ヤ形蜻蛉ノ尾ヲ銜ムニ似タリ  
 ト是ニ由テ秋津洲ト號ス蜻蛉秋津○四十二年  
 皇子神渟名川耳尊ヲ立テ皇太子トス○七十六  
 年春三月十一日天皇崩ス壽一百二十七明年

丁丑大和國畝傍山東北ノ陵ニ葬ル北城東西一町南北三町

歷代大畧皇太子立ツ是ヲ綏靖天皇トス

綏靖天皇

神渟名川耳天皇ト號ス神武天皇ノ第三子ナ

リ母ハ媛路鞠平鈴媛ト號ス神武天皇ノ二十

九年ニ降誕シ同四十二年正月三日立テ太子ト

ナル時ニ年十四庚辰年正月八日即位年五十二

天皇天姿岐嶷少ニシテ雄氣アリ武技絶倫性至

孝ナリ諒闇ニ在リテ悲哀已ムナシ諒闇ノア

イダ政ヲ庶兄手研耳命ニ委ス手研耳命久シク

事ヲ執リ威徳已ニ行ハル、ヲ以テ潜カニ不軌  
 ヲ圖ラントス 天皇知リテ密カニ之レヲ備ヲ  
 ナス山陵ノ事畢リテ母兄神八井耳命ト凡ニ謀  
 リテ之レヲ除カント欲ス會手研耳命獨リ卧ス  
 天皇神八井耳命ト凡ニ聞ヲ排シテ入り神八井  
 耳命ヲシテ之レヲ射サシメントスルニ戰慄シ  
 テ矢ヲ發スルヲアタハズ 天皇乃チ其弓矢ヲ  
 奪ヒ射テ之レヲ殺ス ○元年都ヲ大和國葛城ニ  
 徙シ高丘宮ト號ス ○二十五年皇子磯城津彦玉  
 手看ヲ立テ皇太子トス ○三十三年五月十日

天皇崩ス壽八十四明年十月十一日大和國高市  
 郡桃花鳥田丘上陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 安  
 寧天皇トス

安寧天皇

磯城津彦玉手看天皇ト號ス 綏靖天皇ノ太子  
 ナリ母ハ五十鈴依媛ト號ス 綏靖天皇ノ十五  
 年甲午ニ降誕シ同二十五年正月七日立テ太子  
 トナル年十一癸丑年七月三日即位時ニ年二十  
 ○元年都ヲ片鹽ニ徙ス浮穴宮ト號ス ○三年皇  
 后淳名底仲媛ヲ立ツ ○十一年太日本彦耜友尊



ヲ立テ皇太子トス○三十八年十二月六日 天  
皇崩ス壽五十七明年八月一日大和國畝傍山西  
南御陰井上陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 懿德天  
皇トス

懿德天皇

大日本彦躬友天皇ト號ス 安寧天皇ノ第二子  
ナリ母ハ淳名底仲媛ト號ス 綏靖天皇ノ二十  
九年戊申ニ降誕シ 安寧天皇ノ十一年正月一  
日立テ太子トナル時ニ年十六辛卯ノ年二月四  
日即位年四十四○二年都ヲ輕ニ徙シ曲峽宮ト

號ス○二十五年觀松彦香殖稻尊ヲ立テ皇太子  
トス○三十四年九月八日 天皇崩ス壽七十七  
大和國畝傍山南織沙谿上陵ニ葬ル皇太子立ツ  
是ヲ 孝昭天皇トス

孝昭天皇

觀松彦香殖稻天皇ト號ス 懿德天皇ノ太子ナ  
リ母ハ天豐津媛 懿德天皇五年乙未ニ降誕シ  
同二十二年二月十二日立テ太子トナル年十八  
丙寅ノ年正月九日即位時ニ年三十二○元年都  
ヲ掖上ニ徙シ池心宮ト號ス○六十八年日本足

彦國押人尊ヲ立テ皇太子トス○八十三年八月五日 天皇崩ス壽一百十四明年八月大和國掖上博多山陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 孝安天皇トス

孝安天皇

日本足彦國押人天皇ト號ス 孝昭天皇ノ第二子ナリ母ハ世襲足媛ト號ス 孝昭天皇四十九年甲寅ニ降誕シ同六十八年正月十四日立テ太子トナル年二十己丑ノ年正月七日即位時ニ年三十六○二年都ヲ室ニ徙シ秋津島宮ト號ス○

二十六年押媛ヲ立テ皇后トス○七十六年大日本根子彦太瓊尊ヲ立テ皇太子トス○一百〇二年正月九日 天皇崩ス壽一百三十七同九月十三日大和國玉手丘上陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 孝靈天皇トス

孝靈天皇

大日本根子彦太瓊天皇ト號ス 孝安天皇ノ太子ナリ母ハ押媛ト號ス 孝安天皇五十一年己卯ニ降誕シ同七十六年正月五日立テ太子トナル年二十六辛未ノ年正月十二日即位時ニ年五

十三〇元年都ヲ黒田ニ徙シ廬戸宮ト號ス〇五年駿河國ニ富士山湧出シ近江國ニ湖水開ク〇三十六年大日本根子彦國率尊ヲ立テ太子トス〇七十二年秦ノ徐福來テ不死ノ藥ヲ求ム秦人徐福童男女千人ヲ率キ典籍ヲ齎ラシ來リテ藥ヲ求メテ獲ズ遂ニ留テ歸ラス一ニ曰富士山ニ入ル一ニ曰熊野山ニ入ル又熊野山中ニ徐福カ祠アリ凡云ヘリ年代悠遠事蹟ノ詳ナルヲ得テ知ルベカラズ

〇七十六年二月八日 天皇崩ス壽一百二十八

孝元天皇ノ六年九月六日大和國片丘馬阪陵ニ

葬ル太子立テ是ヲ 孝元天皇トス

孝元天皇

大日本根子彦國率天皇ト號ス 孝靈天皇ノ長

子ナリ母ハ細媛ト號ス 孝靈天皇ノ十八年戊

子ニ降誕シ同三十六年正月一日立テ太子トナ

ル年十九丙寅年正月十四日即位時ニ年六十〇

四年都ヲ輕ニ徙シ境原宮ト號ス〇七年鬱代繼

命ヲ立テ皇后トス〇二十二年稚日本根子彦大

日日尊ヲ立テ皇太子トス〇三十九年夏六月雪

フル○五十七年九月二日 天皇崩ス壽一百十  
六 開化天皇ノ五年二月六日大和國劍池島上  
陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 開化天皇トス

開化天皇

推日本根子彦太日日天皇ト號ス 孝元天皇ノ  
第二子ナリ母ハ鬱代讜命ト號ス 孝元天皇ノ  
三年己丑ニ降誕シ同二十二年正月十四日立テ  
太子トナル年二十同五十七年十一月十二日即  
位時ニ年五十五○元年都ヲ春日ニ徙シ率川宮  
ト號ス○六年伊香色讜命ヲ立テ皇后トス○二

十八年御間城入彦尊ヲ立テ皇太子トス○六十  
年四月九日 天皇崩ス壽一百十五同十月三日  
大和國春日率川坂上陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ  
崇神天皇トス

崇神天皇

御間城入彦五十瓊殖天皇ト號ス 開化天皇ノ  
第二子ナリ母ハ伊香色讜命ト號ス 開化天皇  
ノ十年癸巳ニ降誕シ同二十八年正月五日立テ  
太子トナル年十九甲申年正月十二日即位時ニ  
年五十二○元年御間城姬命ヲ立テ皇后トス○

三年都ヲ磯城ニ徙ス瑞籬宮ト號ス○四年建膳  
 心命ヲ以テ大禰トシ田畔命ヲ以テ宿禰トス  
 五年天下飢疫並ヒ行ハレ盜賊大ニ起ル 天皇  
 懼レテ八十萬神ヲ祭リ天社國社神地神戸ヲ定  
 メ庶民ヲ賑ハス是ニ於テ疾疫始メテ息ミ群盜  
 悉ク平ラキ年豐ニ民安シ○六年 天照大御神  
 ヲ大和國笠縫邑ニ祭ル初メ 大御神神寶ヲ以  
 テ皇孫ニ賜ハリテ曰ク汝之レヲ視ル一猶吾ヲ  
 視ルカ如ク宜シク牀ヲ同フシ殿ヲ共ニシ以テ  
 祀ルベシト故ニ歷世之レヲ殿内ニ祀リ牀ヲ同

フシテ起卧シイマダ嘗テ須臾モ離レズ是ニ至  
 リテ神ヲ瀆サン一ヲ畏レ祠ヲ笠縫ニ建テ神鏡  
 及ヒ劍璽ヲ奉安シ皇女豐躬入姫ヲシテ齋戒シ  
 テ祠ニ侍セシム然シテ更ニ神寶ヲ摸造シ以テ  
 御牀ニ置ク一曰神寶ヲ温明殿ニ藏サム○九年赤盾八枚赤矛  
 八竿ヲ以テ黑坂神ヲ祀リ黑盾十枚黑矛十竿ヲ  
 以テ大坂神ヲ祀ル○十年大彥命ヲ北陸ニ武渟  
 川別命ヲ東海ニ吉備津彥命ヲ西海ニ道主命ヲ丹  
 波ニ遣シ詔シテ曰ク命ニ從ハザル者アラバ兵  
 ヲ舉テ之レヲ伐ツベシト各授クルニ印綬ヲ以

テス此ヲ四道將軍ト云フ將軍ヲ置ク一將ニ發  
 セントスルニ及テ武埴安彦友シテ京師ヲ襲ハ  
 ント欲スルニ會フ是ニ於テ大彦命吉備津彦命  
 彦國葦ニ命シ討テ之レヲ平ラゲ然シテ後各四  
 道ニ往カシム○十二年人民ヲ校シ更ニ調役ヲ  
 課ス○十七年始テ船舶ヲ造ル○四十八年活目  
 尊ヲ立テ太子トス○六十二年河内國ニ於テ地  
 ヲ穿テ溝ヲ通セシム詔シテ曰ク農ハ天下ノ大  
 本民ノ生スル所以ナリ今河内狹山水少ク百姓  
 農事ニ怠タル其レ多ク池溝ヲ開ラケ是ニ於テ

十月ニ依網ノ池ヲ造リ十一月ニ菟坂ノ池坂折  
 ノ池ヲ造ル○六十五年任那國始メテ朝貢ス任  
 那ハ筑紫ヲ去ルニ二千余里雞林ノ西南ニアリ  
 ト云フ○六十八年十二月五日、天皇崩ス壽一  
 百十九 垂仁天皇元年八月十一日大和國山邊  
 道上陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 垂仁天皇トス

垂仁天皇

活目入彦五十狹茅天皇ト號ス 崇神天皇ノ第  
 三子ナリ母ハ御真津姬命ト號ス 崇神天皇ノ  
 二十七年庚戌正月一日ニ降誕シ同四十八年四

月十九日立テ太子トナル年二十二壬辰ノ年正  
 月二日即位時ニ年四十三 天皇人ト爲リ倮儻  
 ニシテ大度ナリ 崇神天皇嘗テ 天皇及ヒ  
 天皇ノ兄豐城命ニ謂テ曰ク朕二子ニ於ケル固  
 ヲリ慈愛異ナルナシイマタ孰レヲ嗣トナサシ  
 一ヲ知ラス故ニ夢兆ヲ以テ之レヲ決セントス  
 二子夢ミル一アラバ朕ニ告グベシト是ニ於テ  
 二皇子沐浴シテ寢ス明日豐城命入テ奏シテ曰  
 ク夢ニ御諸山ニ登リ東ニ嚮テ槍ヲ弄スル一八  
 タヒカヲ擊ツ一八タヒナリ 天皇モ亦奏シテ

曰ク夢ニ御諸山ノ嶺ニ登リ四方ヲ經繩シ粟ヲ  
 啄ノ雀ヲ逐フト 崇神天皇諭シテ曰ク豐城ハ  
 唯東嚮ス宜シク東國ヲ治ムベシ活目ハ四方ニ  
 臨ム宜シク朕カ位ヲ繼クベシ因テ立テ太子ト  
 ナル○二年都ヲ纏向ニ徙シ珠城宮ト號ス○任  
 那ノ使人蘇那葛智是ヨリ先ニ來朝シ仍テ留寓  
 スコ、ニ至リ厚ク賞シテ遣リ歸ス且ツ赤絹一  
 百匹ヲ以テ任那王ニ賜フ新羅人途ニシテ之レ  
 ヲ劫奪ス是ヨリ二國相惡仇ス  
 ○三年新羅王子天日槍歸化ス其ノ齋ス所ノ寶

物ヲ以テ但馬ニ藏ス土人崇奉シ號シテ出石社  
ト云フ○五年狹穂彦謀反ス上毛野ハ綱田ヲシ  
テ兵ヲ率テ之レヲ討シム狹穂彦ハ皇后ノ母兄  
ナリ寵ヲ恃テ驕侈潜カニ不軌ヲ圖ル密ニ皇后  
ニ謂テ曰ク汝夫ト兄トニ於テ孰レカ最モ親愛  
スルヤ后素ヨリ親ニ渥シ答テ曰兄ナリト狹穂  
彦又曰ク夫レ色ヲ以テ人ニ仕ル者ハ色衰フレ  
バ罷弛ムモシ我ヲシテ志ヲ得セシムル時ハ汝  
ト凡ニ天下ニ遊マン汝長ク憂ナシ乃チ綵組ヲ  
繫ル七首ヲ以テ之レニ授ケ 天皇ノ寐ヲ伺テ

之レヲ刺シム一日 天皇皇后ノ膝ヲ枕ニシテ  
寢ス皇后兄ノ言ヲ思ヒ悲懼交至リ淚墮テ天  
皇ノ面ニ點ス 天皇驚キ寤テ皇后ニ謂テ曰ク  
朕夢ニ錦色ノ小蛇朕カ頸ヲ匝リ雨アリ狹穂ヨ  
リ來テ朕カ面ニ沾クト是レ何ノ祥ゾヤ皇后悚  
懼地ニ伏シ泣テ其實ヲ告グ 天皇曰ク是レ汝  
ガ罪ニアラズト乃チ八綱田ヲシテ之レヲ討タ  
シム狹穂彦城ヲ堅フシ拒キ守ル皇后曰ク吾カ  
兄ヲ亡バ吾何ノ顔アリテ天下ニ遊マン廼チ皇  
子ヲ抱テ奔テ城中ニ投ス 天皇狹穂彦ニ諭シ



后及皇子ヲ出サシム狹穗彦聽カズハ綱田遠ニ  
 火ヲ縱テ城ヲ焚ク皇后人ヲシテ皇子ヲ城外ニ  
 送り出サシメテ曰ク妻カ皇子ヲ奉シテ此ニ在  
 ルモノハ以テ兄ノ誅ヲ寬フセント欲シテナリ  
 今ヤ免ル、トヲ得ズ因ツテ之ヲ奉還スト遂ニ  
 狹穗彦ト凡ニ城中ニ焚死ス○七年大和國當麻  
 邑ニ當麻蹶速ナル者アリ齊力人ニ絶レ常ニ其  
 勇ニ誇リ以爲ク天下ノ人能ク已レニ抗スル者  
 ナシト自ラ闕ニ至リテ比試セント請フ 天皇  
 之レヲ聞キ郡國ヲシテ其敵手ヲ擇ハシム出雲

國ヨリ野見宿禰ナル者ヲ薦ム是レハ天穗日命  
 ノ裔ニシテ勇力ヲ以テ聞フ乃チ二人ヲ名シ命  
 シテ角カセシム宿禰蹶速ノ習ヲ賜ケ腰骨折レ  
 テ斃ル 天皇大ニ賞シ乃チ蹶速ノ田宅ヲ以テ  
 宿禰ニ賜ヒ遂ニ擢用セララル廷ニシテ角カヲ觀  
 ルト此ニ始マル○二十三年皇后狹穗姫ノ生ム  
 所ノ譽津別王年既ニ三十猶啼クト兒ノ如クニ  
 シテ常ニ言フト無シ時ニ鵠アリ鳴テ大虚ヲ度  
 ル王仰キ視テ曰ク是レ何物ゾヤト帝其言ト得  
 ルヲ喜ビ天湯河板舉ナル者ニ命シテ鵠ヲ捕ラ

エシム因テ姓ヲ鳥取ト賜フ王ノ兒タルヤ狹穂彦ノ亂ニ遇ヒ軍中ニ在リシ故驚癩ヲ病マレシニ因リ言フアタハスト云フ○二十五年倭姫奏シテ天照大御神ノ宮ヲ伊勢國五十鈴川ノ上ニ建ツ上古太御神始メテ降臨ノ地ニシテ今ノ内宮是ナリ○二十七年祠官ヲシテ兵器ヲ以テ神幣トスルヲトスルニ吉ナリ乃チ弓矢刀ヲ諸社ニ納レ時ヲ以テ祭ル兵器ヲ以テ神ヲ祭ル此ニ始マル○二十九年皇后日葉酸媛崩ス去年皇弟倭彦命薨スル時其近習ヲ以テ殉ト

ナス哀號ノ聲日夜絶エズ天皇聞テ之レヲ惻ミ詔シテ殉死ヲ禁ズ是ニ至リテ又群臣ヲシテ之レヲ議セシム野見宿禰奏シテ出雲國ヨリ土師百人ヲ召ビ土ヲ以テ車馬人物等ノ形ヲ造リ之レヲ以テ殉死ニ代ント請フ天皇大ニ嘉ヒ立テ永制トス宿禰ヲ以テ土部ノ職ニ任シ姓ヲ土部臣ト賜フ世々大喪ヲ掌ルト云フ○三十五年饑ス諸國ニ詔シテ倉穀ヲ發シ貧民ヲ賑シ且ツ諸國ヲシテ池溝ヲ開カシムル凡八百以テ農ヲ勸ム○三十七年大足彦尊ヲ立テ皇太子ト

ス○九十九年七月三日 天皇崩ス壽一百四十  
一同年十二月十日大和國菅原伏見東陵ニ葬ル  
皇太子立ツ是ヲ 景行天皇トス

初メ 天皇田道間守ヲ遣ハシ非時杵果ヲ常

世國ニ求ム間守還ルニ及ンテ 天皇己ニ崩

ス乃チ陵ヲ拜シ慟哭シテ死ス間者傷惋ス常

世國トハ或ハ曰ク蓬萊或ハ曰ク西海杵果ハ

是レ橘ナリ○相傳フ 天皇ノ世始メテ使ヲ

漢ニ遣スト後漢書東夷傳ヲ按スルニ云ク中

元二年倭奴國奉貢ス使人自ラ大夫ト稱ス又

魏志倭人傳ニ伊靦國アリ此ノ伊靦國トハ即

チ今ノ筑前國ノ怡土郡ノ事ニシテ伊靦ト倭

奴ト音相通ス蓋シ此時使ヲ漢ニ遣ストハ伊

靦國造ノ遣ル所ニシテ朝廷ノ使ニアラザル

ベシ○筑前ノ國人嘗テ古印ヲ得ル其文ニ曰

ク倭奴國王之印ト是則チ漢ノ時ノ伊都國造

ニ授クル物ナリコヽニ記シテ考據ニ備フ

景行天皇

大足彦忍代別天皇ト號ス 垂仁天皇ノ第二子

ナリ母ハ日葉酢媛ト號ス 垂仁天皇ノ十七年

戊申ニ降誕シ同三十七年正月一日立テ太子ト  
 ナル年二十一辛未年七月十一日即位時ニ年八  
 十四 天形容貌雄偉身長一丈。二寸脛長四尺  
 ニ過ク 天皇嘗テ兄五十瓊敷命ト臣ニ 垂仁  
 天皇ニ侍ス 垂仁天皇曰ク二子試ミニ欲スル  
 所ヲ言ヘ五十瓊敷命曰ク願クハ弓矢ヲ得ン  
 天皇曰ク願クハ大位ヲ得ン因テ弓矢ヲ五十瓊  
 敷命ニ賜ヒ然シテ 天皇ニ謂テ曰ク汝宜ク朕  
 カ位ヲ嗣クベシ是ニ於テ儲位定マル○元年播  
 磨ノ稻日太郎媛ヲ以テ皇后トス二男ヲ生ム雙

胎ナリ兄ヲ大碓ト曰ヒ弟ヲ小碓ト曰フ小碓壯  
 ナルニ及テ身丈一丈力能ク鼎ヲ扛ク日本武尊乃是ナリ  
 ○四年美濃國ニ幸ス○纏向ヲ更メテ日代宮ト  
 號ス○十二年筑紫ノ熊襲反ス 天皇親ラ征シ  
 テ日向國ニ至リ高屋宮ニ居シ群臣ヲ召テ熊襲  
 ヲ討ンコトヲ議ス一臣アリ策ヲ獻シテ曰ク彼レ  
 二女アリ姉ヲ市乾鹿文ト云ヒ妹ヲ市鹿文ト云  
 フ勇ニシテ美ナリ唱シムルニ重幣ヲ以テシ誘  
 テ之レヲ納レ其ヲシテ熊襲ヲ圖ラシメン 天  
 皇之レニ從ヒ幣ヲ厚フンテ二女ヲ招キテ之ヲ

和國史

納レ陽テ姉ノ市乾鹿文ヲ寵ス既ニシテ奏シテ  
 日ク妻一計アリ從兵二人ヲ得テ以テ辨ズルニ  
 足ル 天皇也ヲ聽ス市乾鹿文乃チ家ニ歸リ父  
 ニ飲シムルニ醉酒ヲ以テシ其ノ醉臥ヲ伺ヒ密  
 カニ弓絃ヲ斷チ從兵ヲシテ之ヲ殺サシム 天  
 皇其大逆ヲ惡ミ市乾鹿文ヲ誅シ妹ノ市鹿文ヲ  
 以テ火國造トス遂ニ熊襲ノ酋ヲ斬リ余衆悉ク  
 降ル高屋宮ニ駐ス凡テ六年以テ西州平定ス  
 天皇故宮ニ歸フシテ思ヒ歌ヲ作ル是ヲ思邦  
 歌ト云フ○十七年高屋宮ヲ發シ筑紫ニ巡狩シ

葦北

肥後國ノ郡名ナリ

ヨリ海ニ浮ム夜冥フレテ向フ所

ヲ知ラズ遙カニ火光ヲ望ミ見テ岸ニ着クヲ  
 得タリ 天皇土人ヲ召テ問テ曰ク邑ノ名ハ何  
 ト云フ對テ曰ク八代縣豐村ト因テ其火ヲ尋子  
 シムルニ何レノ所ニ在ルヲ知ラス故ニ其國ヲ  
 名ケテ火國ト云フ

或曰ク 天皇日向國ニ在ストキ近郊ニ幸シ  
 山ニ登リテ東望シ左右ニ謂テ曰ク是ノ國直  
 ニ日出ノ方ニ向フト因テ其國ヲ號シテ日向  
 ト云フ又曰筑後國ニ一ノ僵樹アリ道ニ横ノ

長サ九百七十丈皆樹ヲ踏ンテ往來ス土人相傳テ云フ此樹歷木ナリ樹ノ僵レザルノ時朝日ニハ杵島山ヲ隠シ夕日ニハ阿蘇山ヲ掩フト 天皇之ヲ視テ曰ク神木ナリ此國宜シク御木國ト號スベシ

二十五年紀武内宿禰ヲ遣シ東北諸國ノ地形民風ヲ巡察セシム還リ奏シテ曰ク東夷ノ中ニ日高見國ナルモノ有リ男女皆推結文身風俗太々勇悍號シテ蝦夷ト云フ土地膏沃擊テ取ルベシト○熊襲復タ反ス皇子小碓ヲシテ之ヲ討タシ

ム皇子時ニ年十六發スルニ臨テ曰ク我善ク射ル者ヲ得テ之ト與ニ行クベシ或人美濃ノ弟彦ヲス、ム皇子人ヲシテ之ヲ召シム弟彦其國人ヲ率キテ來ル皇子進テ其國ニ至リ其形勢ヲ察ス賊ノ梟師ヲ川上ト云フ適其ノ親族ヲ集メテ宴ス皇子髮ヲ被リ童女ノ裝ヲナシ劍ヲ裊中ニ置キ入テ婢妾ノ中ニ居ル川上見テ之ヲ悦ヒ延テ座側ニ置キ杯ヲ舉テ戲狎ス夜闌ニシテ衆散ズルニ及ビ川上酒ヲ被リテ臥ス皇子乃チ劍ヲ拔テ之ヲ刺シ未幾死セズ川上叫テ曰ク汝ハ誰

ズ皇子曰ク我ハ是レ大足彦天皇ノ子日本童男  
 ナリ川上曰ク吾是マデ強勇ナル者ヲ見ル<sub>ト</sub>多  
 シトイヘ<sub>レ</sub>イマダ皇子ノ如キ者ヲ見ズ吾賤陋  
 ナリトイヘ<sub>レ</sub>願クハ皇子ニ嘉號ヲ上ラン日本  
 武尊ト號スベシト言訖リテ皇子遂ニ刺シテ之  
 ヲ殺ス是ヨリ皇子ヲ稱シテ日本武尊ト曰フ遂  
 ニ熊襲ヲ平ゲテ還ル○四十年東夷及ス日本武  
 尊ヲ拜シテ征夷大將軍トナシ之ヲ征セシム  
 天皇親ヲ斧鉞ヲ授ケ吉備武彦大伴武日ヲ副タ  
 ラシム尊乃チ先ツ伊勢ノ國ニ至リ 神宮ヲ拜

ス倭姫<sub>ヒメ</sub>蓼雲寶劍ヲ以テ之ニ授ケテ曰ク是ヲ以  
 テ東夷ヲ征ス可シト進テ駿河國浮島原ニ至ル  
 賊徒尊ヲ誘キテ之ヲ殺サント欲シ乃チ偽リ降  
 リ勸メテ游獵ス因テ火ヲ縱テ野ヲ燒ク尊乃チ  
 叢雲寶劍ヲ抽テ草ヲ薙リ又燧ヲ鑽リシ火ヲ取  
 テ縱ツ會大風吹き起リ烟焰反テ賊徒ヲ燒ク賊  
 徒大ニ驚テ奔散ス尊因テ勢ニ乘シテ奮ヒ撃チ  
 之ヲ殲ス後世其處ヲ號シテ燒津ト云又進テ相  
 蓼雲劍ヲ更メテ草薙劍ト云フ摸ヨリ將ニ上總ニ至ラントス海上ニシテ風濤  
 大ニ作り船殆ント覆没セントス寵妃橘姫從テ

在リ尊ニ白メ曰ク是レ海神崇ヲ爲スナラン妾  
 請フ身ヲ以テ之ニ當ラント言訖リテ海ニ投ス  
 暴風即チ止ム因テ岬ニ着ク一ヲ得タリ上總ヨ  
 リ轉シテ陸奥ニ入リ蝦夷ノ境ニ至ル軍勢太夕  
 盛シナリ賊酋風ヲ望テ降附ス是ニ於テ蝦夷悉  
 ク平ラグ乃チ師ヲ還シ行テ碓日嶺ニ至リ東望  
 シテ橘媛ヲ懷ヒ嘆シテ曰ク吾孀已矣後人因テ東陸ヲ號  
シテ吾孀信濃美濃ヲ巡シ近江ニ至リ中瞻吹山ニ  
 妖神アリト聞キ徒行シテ登リシニ妖神巨蛇ト  
 爲リ道ニ當ル尊一跳シテ之ヲ過キ毒務ニ中リ

山ヲ出テ、病ム意ヲ失フテ醉フガ如シ山下ノ  
 泉ヲ汲テ之ヲ飲ミ乃チ醒ムルヲ得タリ今ノ  
是レ遂ニ伊勢ニ適キ倅ヲ神宮ニ獻ス此時ニ  
 當テヤ尊ノ威名朝野ニ震フ既ニシテ病劇シク  
 武彦ヲシテ京師ニ復命セシメ終ニ伊勢國能褒  
 野ニ薨ス時ニ年三十 天皇大ニ悼惜シ詔シテ  
 葬ルニ天子ノ禮ヲ以テシ陵ヲ能褒野ニ造ル忽  
 チ白鳥アリ陵ヨリ出テ飛テ大和ニ往ク陵ヲ發  
 シテ之ヲ視レハ唯空棺アルノミ是ニ於テ白鳥  
 ノ止マル所ヲ覩テ陵ヲ大和國彈琴原ニ造リシ



二又飛テ河内國古市ニ至ル之レニ因テ更ニ其所ニ陵ヲ造ル時人號シテ三陵ト曰ヒ或ハ白鳥陵ト曰フ

一日尊信濃ニ入リシ時大山ヲ經シニ山神白鹿ニ化シテ尊ヲ苦マシム尊赫ヲ以テ之ヲ彈キ眼ニ中テ死ス又山中ニシテ忽チ道ヲ失ヒシニ白狗アリ尊ヲ導テ遂ニ美濃ニ出ツルト云フ

○四十六年稚足彦尊ヲ立テ太子トス 五十一年武内宿禰ヲ以テ棟梁臣トス○五十三年東巡

シテ日本武尊ノ平クル所ノ國ヲ歷覽シ近江國ニ幸シ志賀ニ居ス高穴穗宮ト號ス○六十年十一月七日 天皇崩ス壽一百四十三 成務天皇ノ二年十一月十日大和國山邊道上陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ 成務天皇トス 景行天皇男ヲ生ムトハ十余人ト云フ

成務天皇

稚足彦天皇ト號ス 景行天皇ノ第四子ナリ母ハ八坂入媛ト號ス 景行天皇ノ十三年癸未ニ降誕シ同四十六年八月四日立テ太子トナル年

三十四辛未ノ年正月五日即位時ニ年四十九〇  
 天皇武内宿禰ト同日ニシテ生ル長スルニ隨テ  
 宿禰ヲ罷ス 景行天皇嘗テ群臣ヲ宴ス 天皇  
 及ヒ武内宿禰至ラズ名シテ故ヲ問フ對テ曰ク  
 百僚宴樂ス若シ急變アラバ恐ラクハ禦グアア  
 タハザラン故ニ門下ニ侍シテ非常ニ備フト  
 景行天皇大ニ之ヲ嘉ス 三年武内宿禰ヲ以テ  
 大臣トス大臣ヲ置クト此ニ始マル〇五年國郡  
 ヲシテ造長ヲ立テ縣邑ヲシテ稻置ヲ置カシム  
 造長稻置ハ皆郡國ヲ治ルノ官名ナリ〇此時

諸國ニ令シテ山河ヲ界シ國縣ヲ分チ阡陌ニ  
 隨ヒ邑里ヲ定メ東西ヲ以テ日縱トシ南北ヲ  
 以テ日橫トス山陽ヲ以テ影面トシ山陰ヲ以  
 テ背面トス  
 〇四十八年皇姪足仲彦ヲ立テ太子トス〇六十  
 年六月十一日 天皇崩ス壽一百〇八明年九月  
 六日大和國狹城<sup>サカキ</sup>省<sup>ノ</sup>列陵ニ葬ル皇太子立ツ是ヲ  
 仲哀天皇トス

仲哀天皇

足仲彦<sup>タケヒコ</sup>天皇ト號ス日本武尊ノ第二子ナリ母ハ

兩道入姫命ト號ス 成務天皇十九年己丑ニ降  
 誕シ同四十八年三月一日立テ太子トナル年三  
 十壬申ノ年正月十一日即位時ニ年四十四 天  
 皇身長十尺容姿日本武尊ニ肖タリ性至孝ニシ  
 父ノ尊早ク世ヲ辭スルヲ以テ哀慕シテ己マズ  
 諸國ニ詔シテ白鳥ヲ獻ゼシム尊ノ陵ニ白鳥ノ  
 異事アルヲ以テナリ○元年大伴武オホトモノタケモチ以テ大  
 連トス大連ヲ置ク此ニ始マル○二年越前ノ  
 角鹿ニ行幸ス皇后及ヒ百僚從フ行宮ヲ造リテ  
 居ス筈飯宮ト號ス皇后及ヒ百僚ヲ角鹿ニ留メ

天皇僅カニ數百人ヲ從ヘテ南國ヲ巡狩セント  
 シ行テ紀伊ニ至リ會マ熊襲及ス 天皇舟師ヲ  
 帥キテ親征シ海ニ泛シ長門ニ至リテ使ヲ角鹿  
 ニ遣リ皇后ヲシテ長門ニ會セシム行宮ヲ作り  
 豐浦宮ト號ス此時皇后如意珠ヲ海ニ得ルト云フ○八年筑前國  
 香推宮ニ行幸シ群臣ヲ會シテ熊襲ヲ討ンテヲ  
 議ス時ニ神有リ皇后ニ憑テ告テ曰ク西方ニ國  
 アリ新羅ト云フ如シ能ク我ヲ祭ラハ我 帝ヲ  
 シテ之ヲ有タシメン彼ノ熊襲ノ如キハ何ノ師  
 フ勞スルニ足ランヤト 天皇乃チ山ニ登リテ

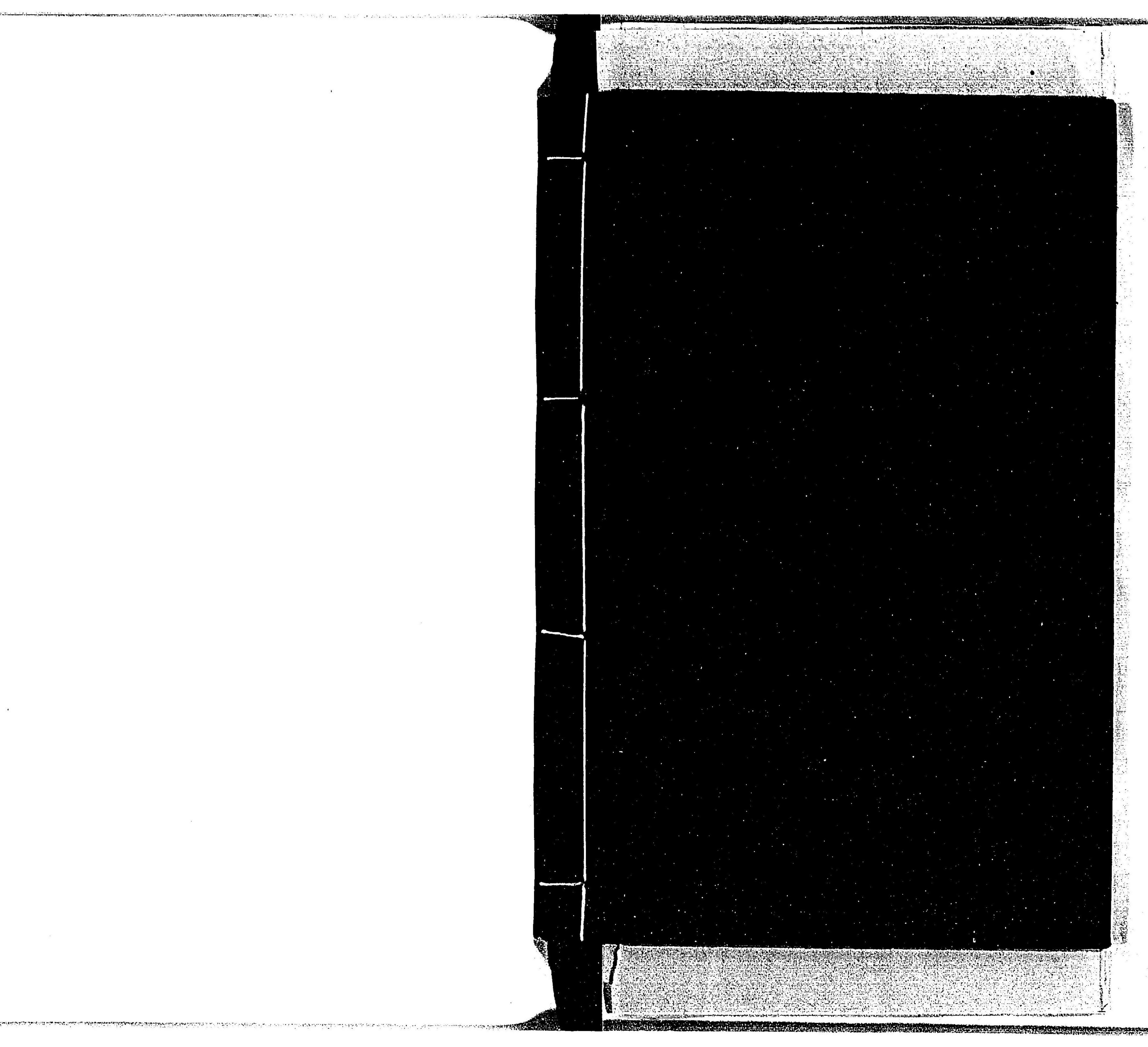
海ヲ望ムニ曠遠ニシテ見ルトコロナシ 天皇  
 竟ニ神ノ言ヲ信ゼズ ○九年二月六日 天皇暴  
 病シテ崩ス壽五十二皇后攝政ノ二年十一月八  
 日大和國惠我長野陵ニ葬ル ○皇后祕シテ喪ヲ  
 發セズ百僚ヲシテ宮中ヲ守衛セシメ密ニ武内  
 宿禰ヲシテ梓宮ヲ奉シ長門ニ至リ豐浦宮ニ殯  
 セシム皇后以爲ラクト夫皇神ヲ慢シテ崩セリ  
 ト乃チ自ラ齋戒シテ再ビ神教ヲ請ヒ教ニ隨テ  
 鴨別ヲ遣ハシ熊襲ヲ討タシムルニ旬日ニシテ  
 服ス是ニ於テ意ヲ決シテ新羅ヲ征セントス諸

國ニ令シテ戰艦ヲ造リ兵甲ヲ練ラシメ皇后自  
 ラ丈夫ノ裝ヲナシ斧鉞ヲ執テ三軍ニ令ス松浦  
 ノ縣玉島ノ邑小川ノ涯ニ至リ鈎ヲ投シテ釣リ  
 シ新羅ヲ征スルノ吉占ヲトスルニ香魚ヲ得タ  
 リ乃チ大ニ悦ビ又海ニ臨テ祝シテ曰ク若シ克  
 ク欲スル所ヲ得バ髮分レテニトナレト因テ俯  
 シテ海ニ沐スレバ髮自ラ二道ニ分レシヲ以テ  
 意益決ス皇后娠ムトアリテ己ニ産月ニ當ル則  
 チ石ヲ取り腰ニ挾ミ祝シテ曰ク凱旋シテ茲ノ  
 地ニ免身セント遂ニ諸軍ヲ率テ和珥津ヲ發ス

ルニ大魚アリ船ヲ夾テ護ス風順ニ船迅シ徑ニ  
 新羅ニ抵ル戰艦海ヲ蔽ヒ鼓聲天ニ震フ加フル  
 ニ潮水怒漲シ溢レテ新羅國中ニ及ブ新羅ノ主  
 惶遽シテ爲ス所ヲ知ラズ面縛シテ來リ降ル左  
 右之ヲ殺サントス皇后曰ク人自ラ降ル之ヲ殺  
 スハ不祥ナリ乃チ其縛ヲ解カシメ遂ニ其都ニ  
 入り重寶ノ府庫ヲ封シ圖籍ヲ收ム新羅ノ主誓  
 ヲ設ケテ曰ク後世子孫朝貢ヲ闕クベカラズ若  
 シ盟ヲ渝ヘバ天神地祇共ニ罰セント是ニ於テ  
 皇后杖ク所ノ矛ヲ以テ國門ニ樹テシニ國人畏

レテ敢テ撒スルモノナシ新羅ノ主其貴臣ヲシ  
 テ來テ質タラシメ船八十艘ヲ以テ金銀綾羅彩  
 色縑絹等ヲ載セテ調貢ス是ヨリ年々八十艘ヲ  
 以テ定額トス高麗百濟モ亦風ヲ望テ歸降シ皆  
 款ヲ納レテ曰ク永ク西藩ト稱シ年々調貢ヲ絶  
 ジト是ニ於テ三韓悉ク臣服ス乃チ官司ヲ置テ  
 國中ヲ安撫セシメ大ニ三軍ヲ賞シテ振旅ス筑  
 紫ノ蚊田ニ至リテ皇子降誕ス即チ應神天皇  
 ナリ





特31  
862

001626-001-0

特31-862

御国史

太田 秀敬/著

M7

ACB-4276

